


空中写真で見る平成新山

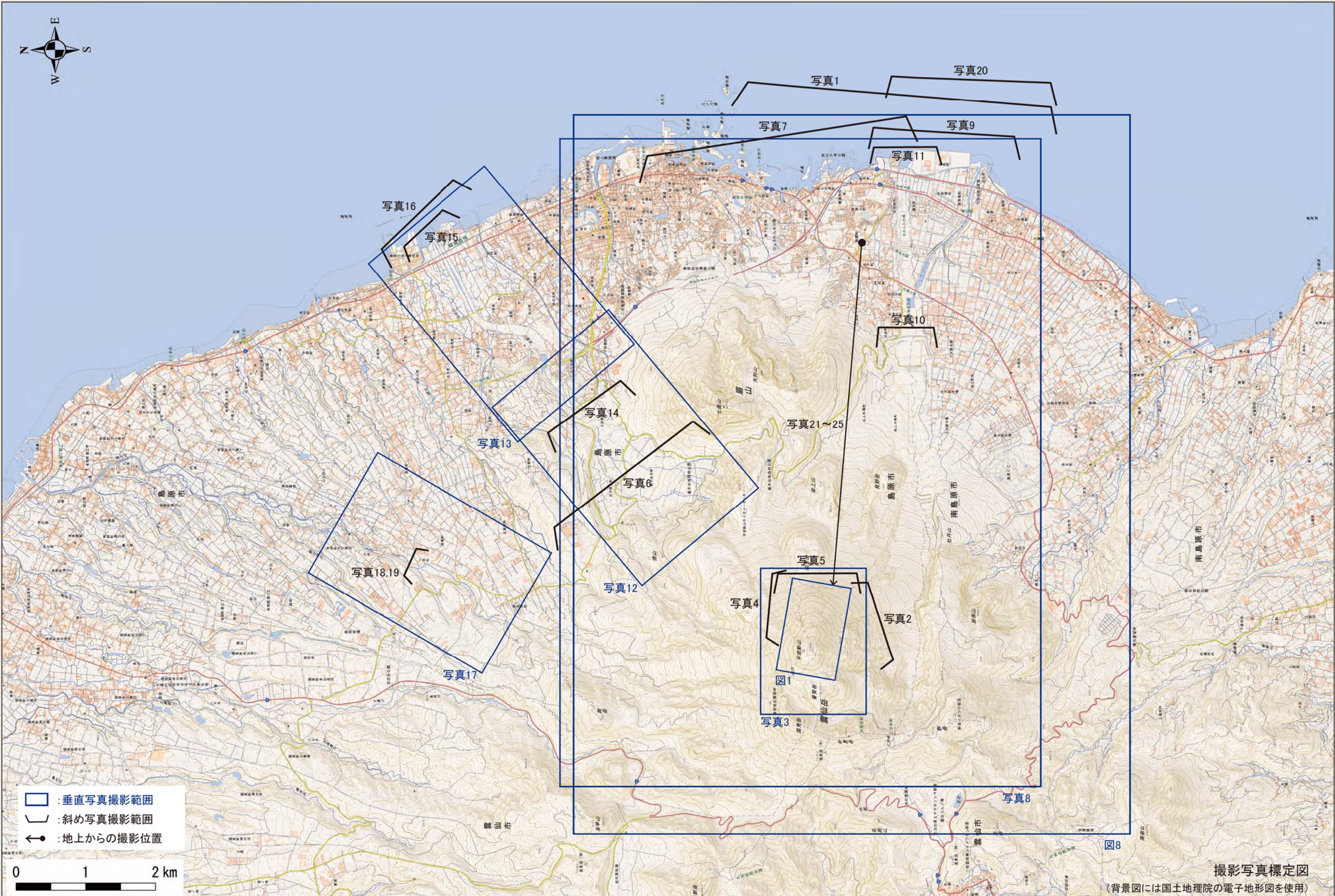


 国土交通省 九州地方整備局
雲仙復興事務所

〒855-0866 長崎県島原市南下川尻町7番地4
TEL : 0957-64-4171 (代) FAX : 0957-64-4127
ホームページ <http://www.qsr.mlit.go.jp/unzen/>
E-mail unzen@qsr.mlit.go.jp



国土交通省 九州地方整備局
雲仙復興事務所
UNZEN RESTORATION WORK OFFICE



- : 垂直写真撮影範囲
- ∟ : 斜め写真撮影範囲
- ← : 地上からの撮影位置

0 1 2 km

図8

撮影写真標定図

(背景図には国土地理院の電子地形図を使用)



野岳

妙見岳 雲仙岳 普賢岳 平成新山

岩床山

水無川

稲生山

糸川谷

牡丹山

貝野岳

水無川

垂木台地

天狗山

眉山

七面山

水無川導流堤

水無川

雲仙復興事務所

雲仙岳災害記念館

●復興アリーナ

写真1:平成27年12月撮影

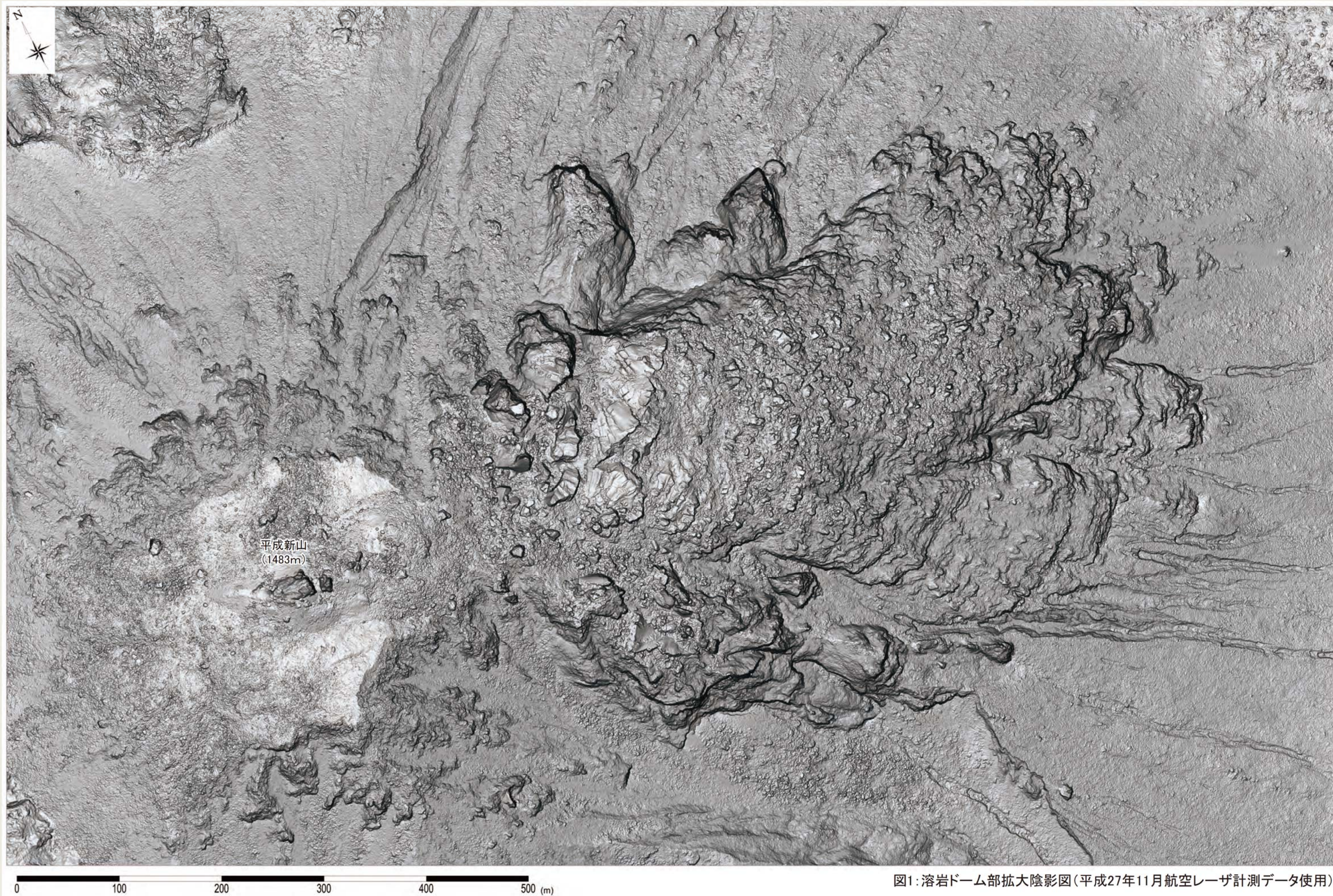


図1: 溶岩ドーム部拡大陰影図(平成27年11月航空レーザ計測データ使用)



写真2：南側から望む平成新山（平成27年12月撮影）

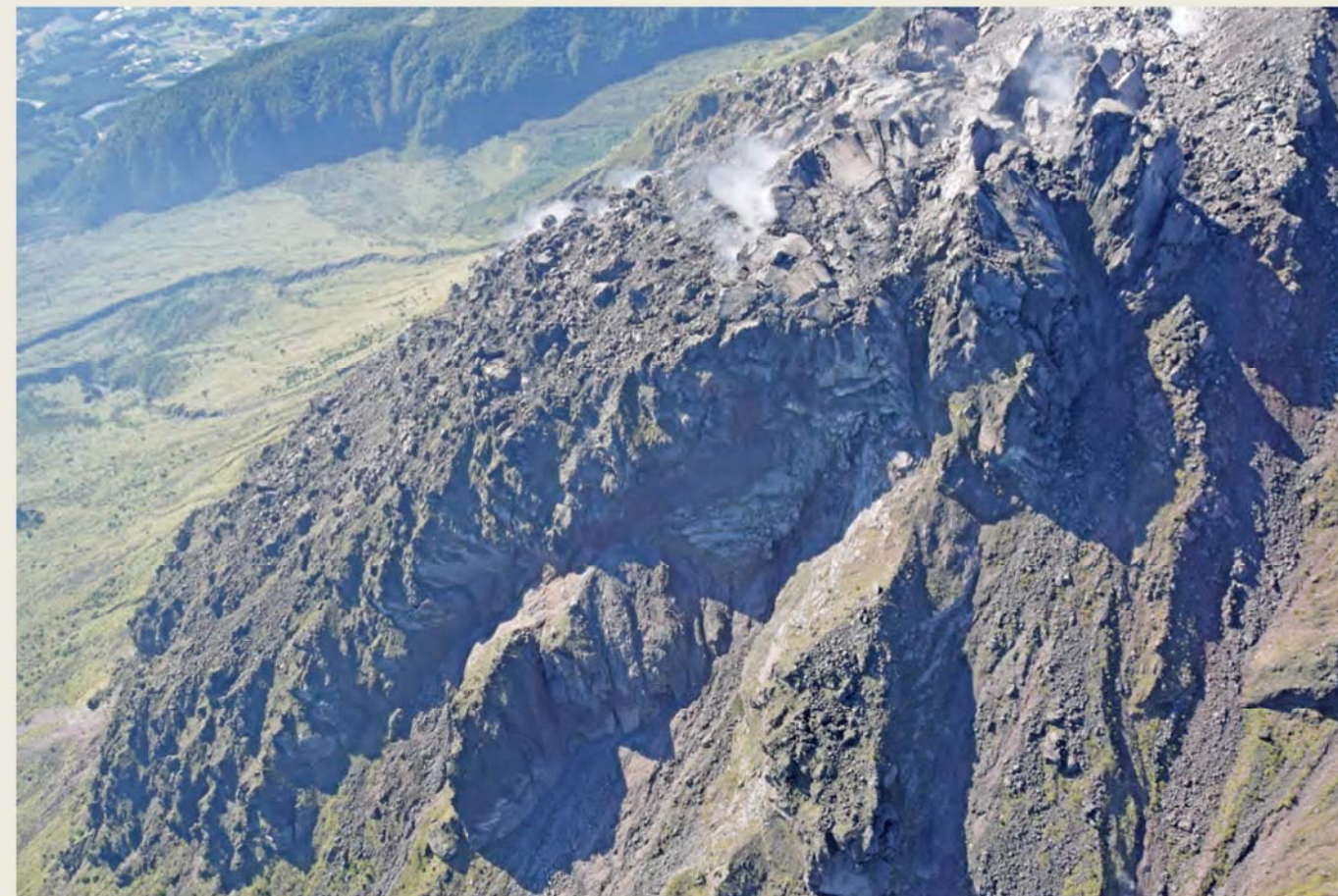


写真4：北側から望む溶岩ドーム（平成26年10月撮影）

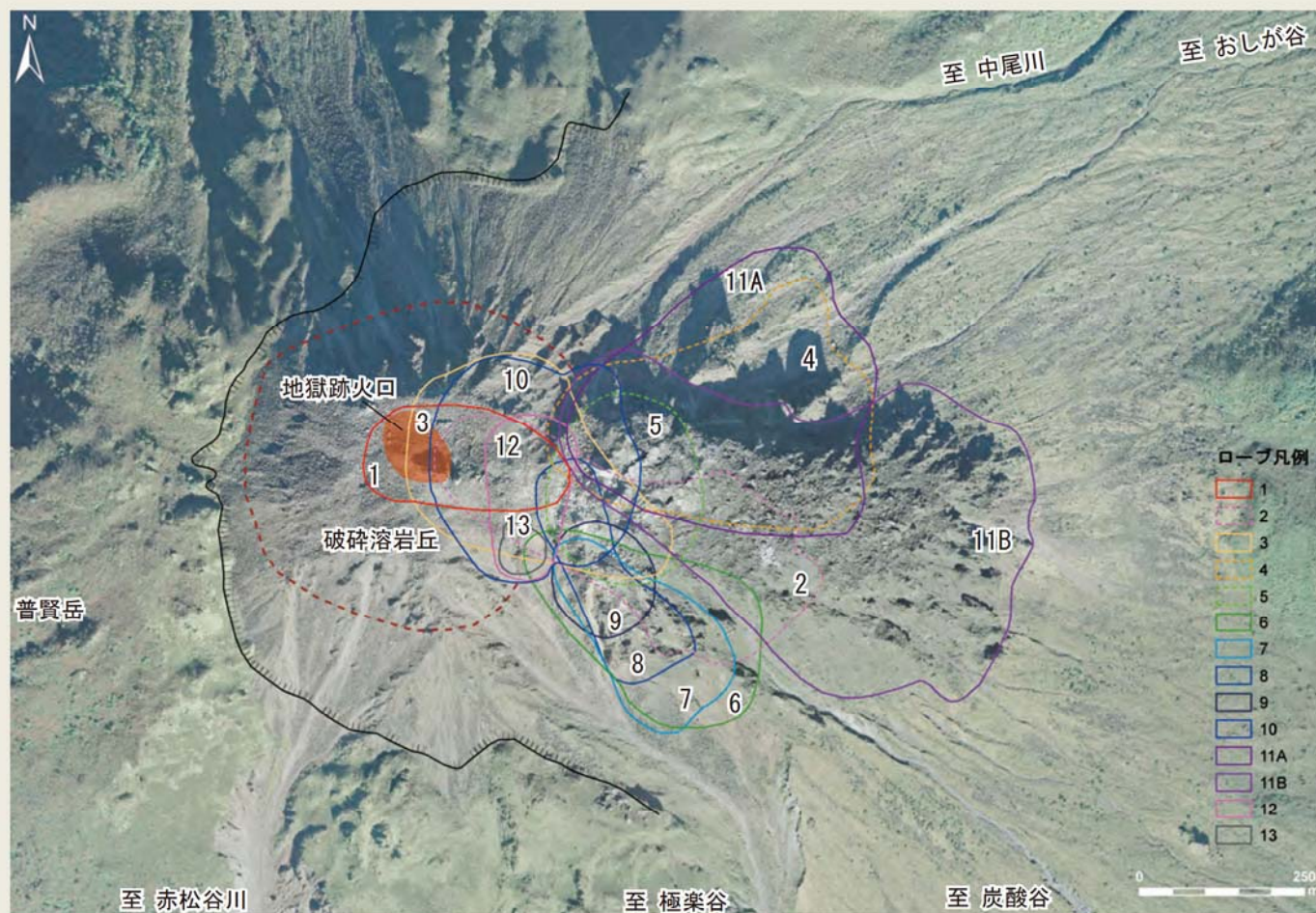


写真3：溶岩ロープ復元図（図中数字はロープ番号を示す、平成26年9月撮影）



写真5：東側から望む平成新山と溶岩ドーム（平成23年11月撮影）

溶岩ドームの崩壊予測

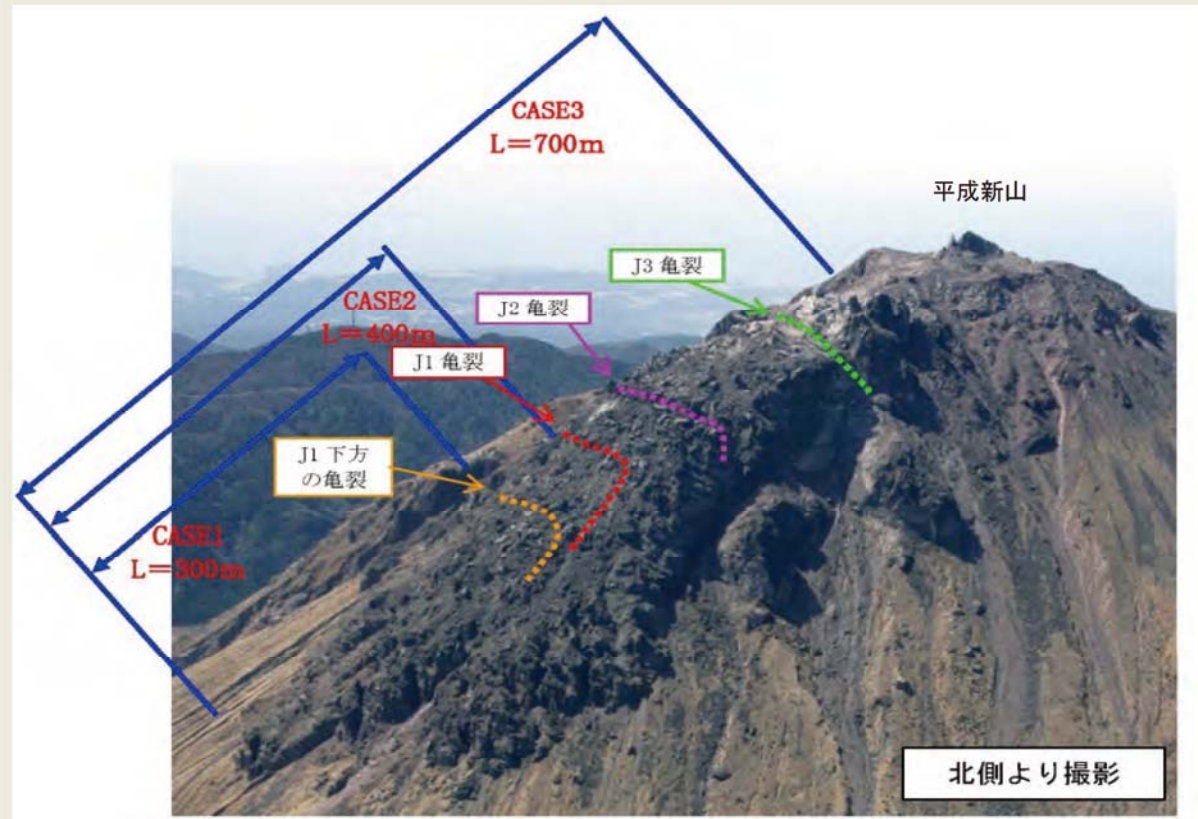


図2: 溶岩ドームの崩壊規模イメージ

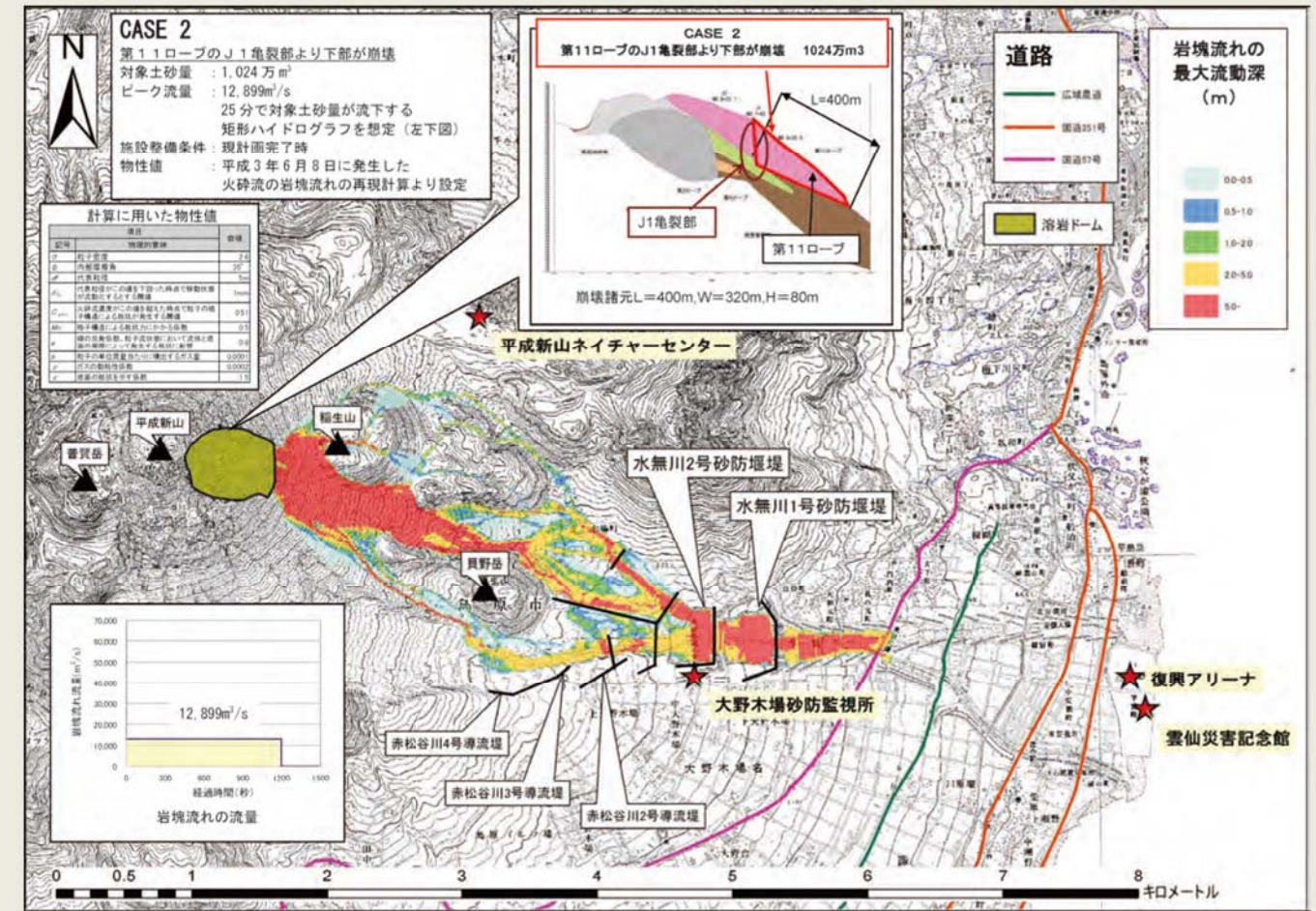


図4: 溶岩ドーム崩壊による影響範囲 (CASE2)

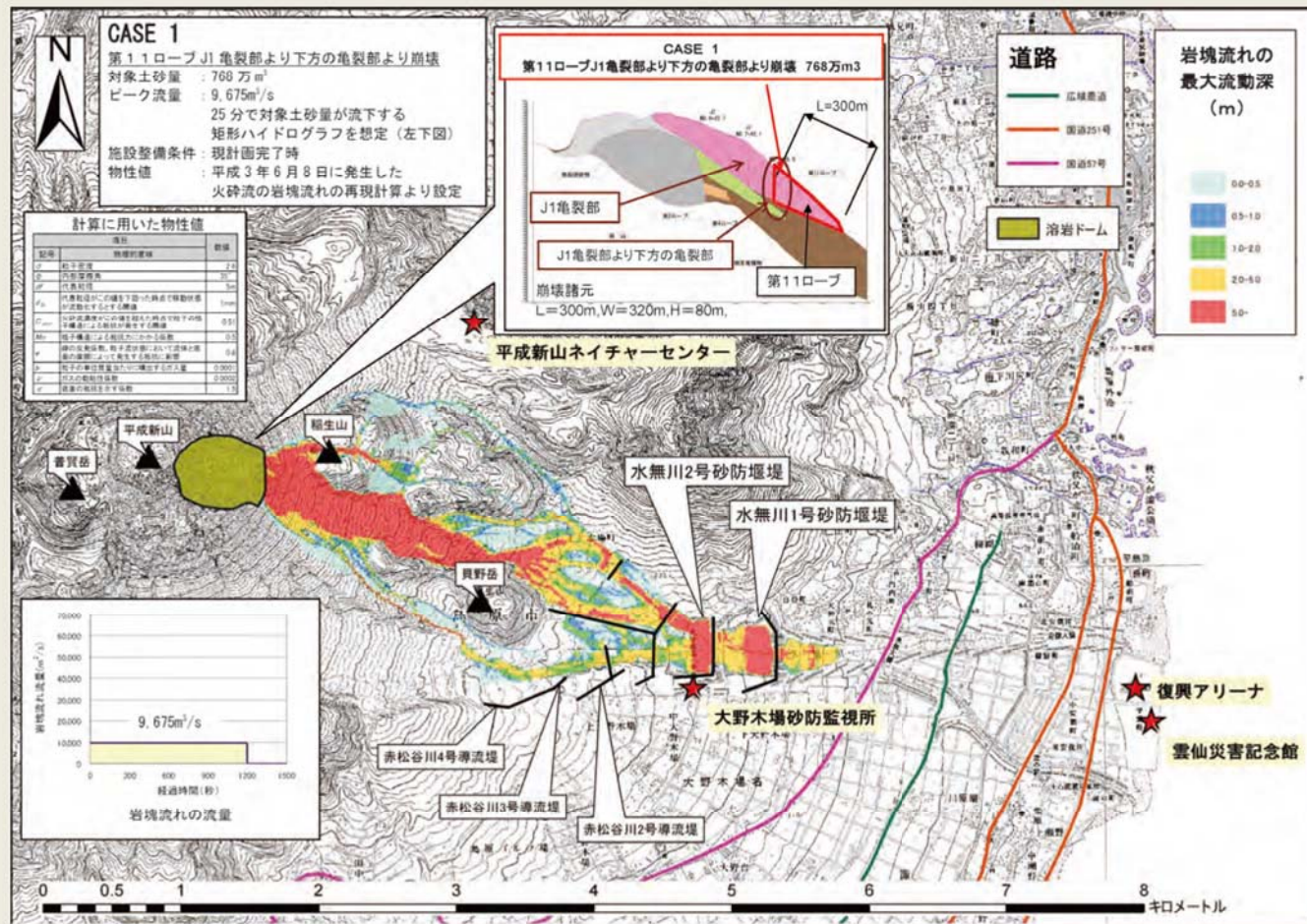


図3: 溶岩ドーム崩壊による影響範囲 (CASE1)

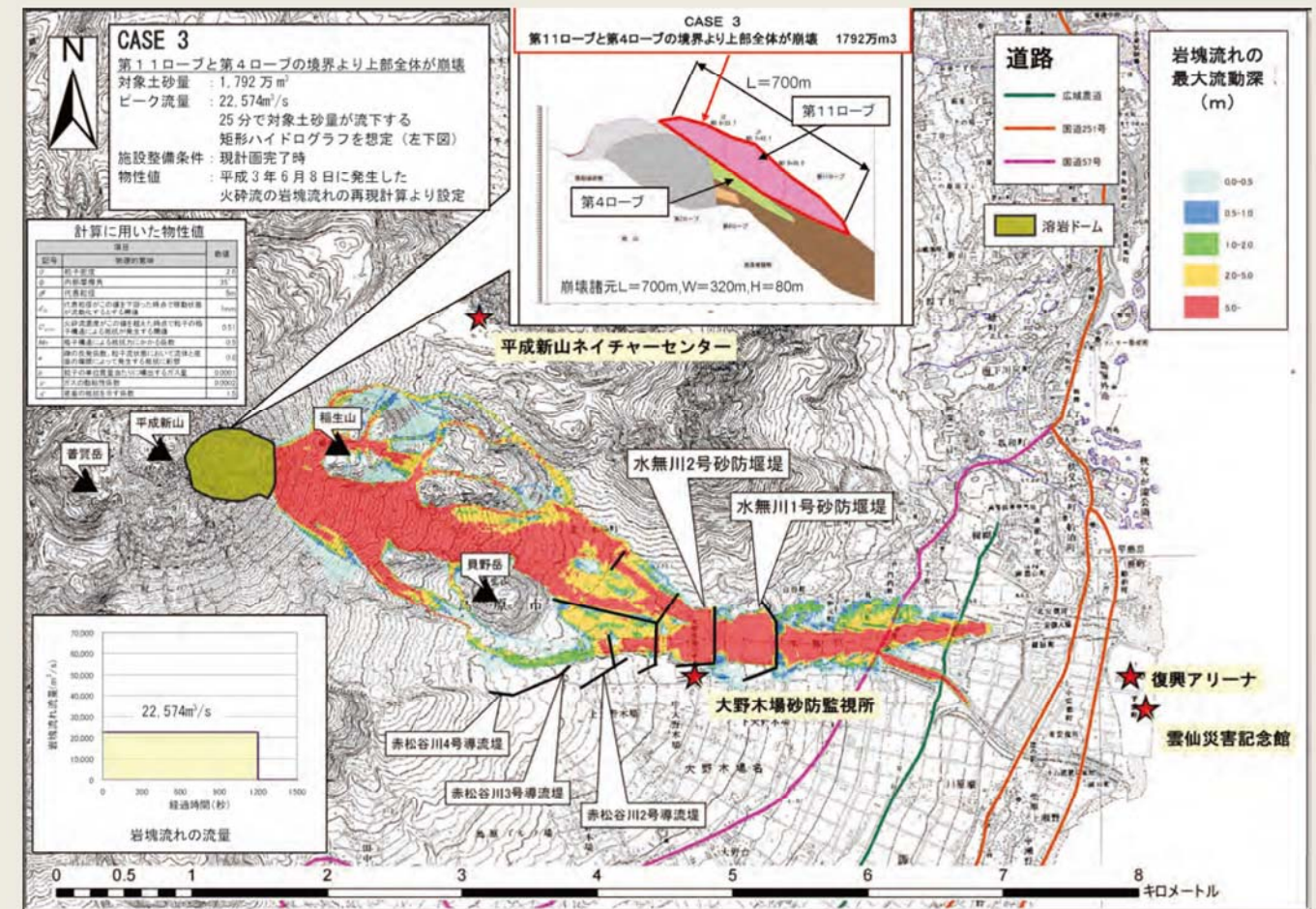


図5: 溶岩ドーム崩壊による影響範囲 (CASE3)

新焼溶岩と眉山

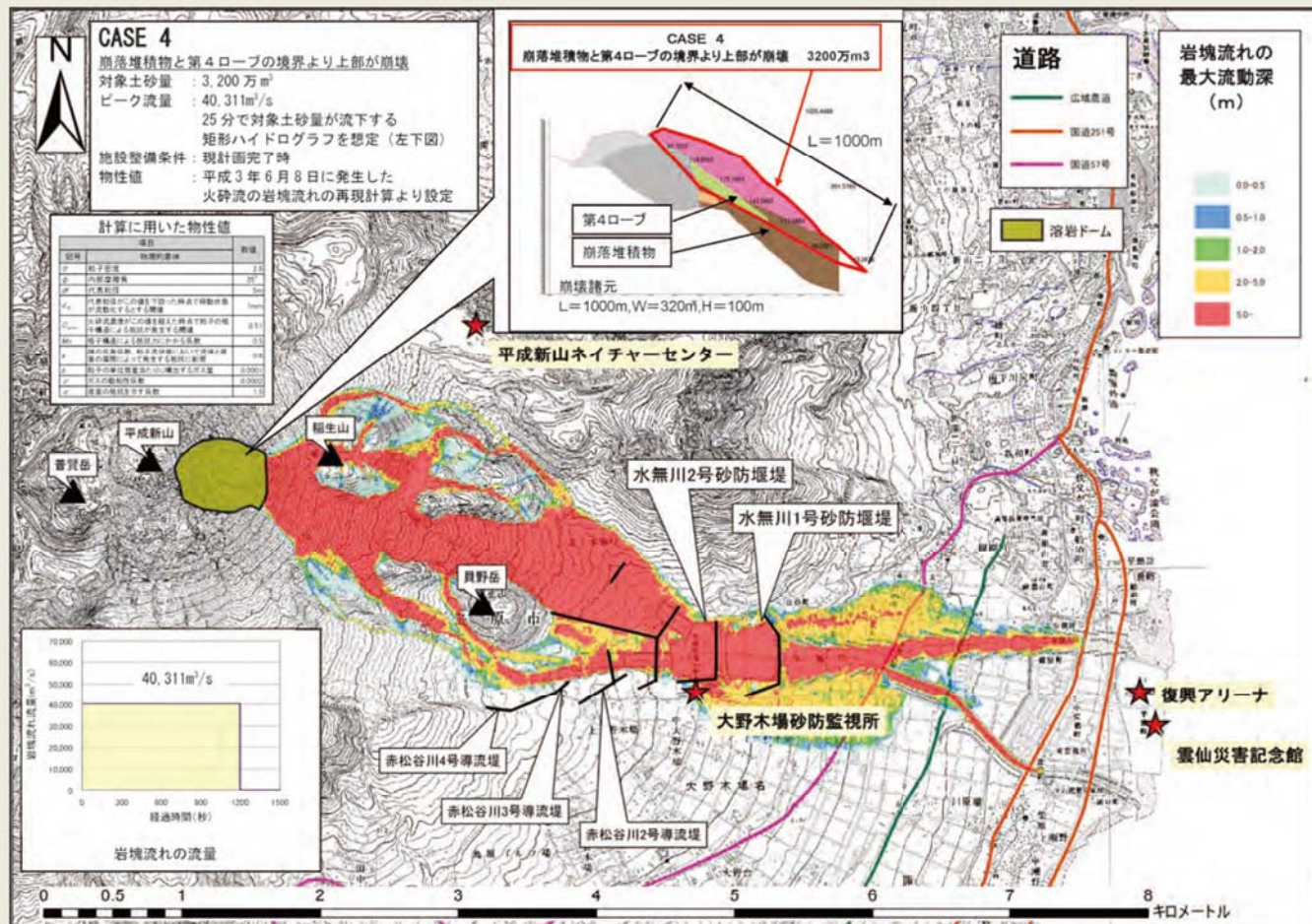


図6: 溶岩ドーム崩壊による影響範囲 (CASE4)



写真6: 新焼溶岩 (平成27年12月撮影)

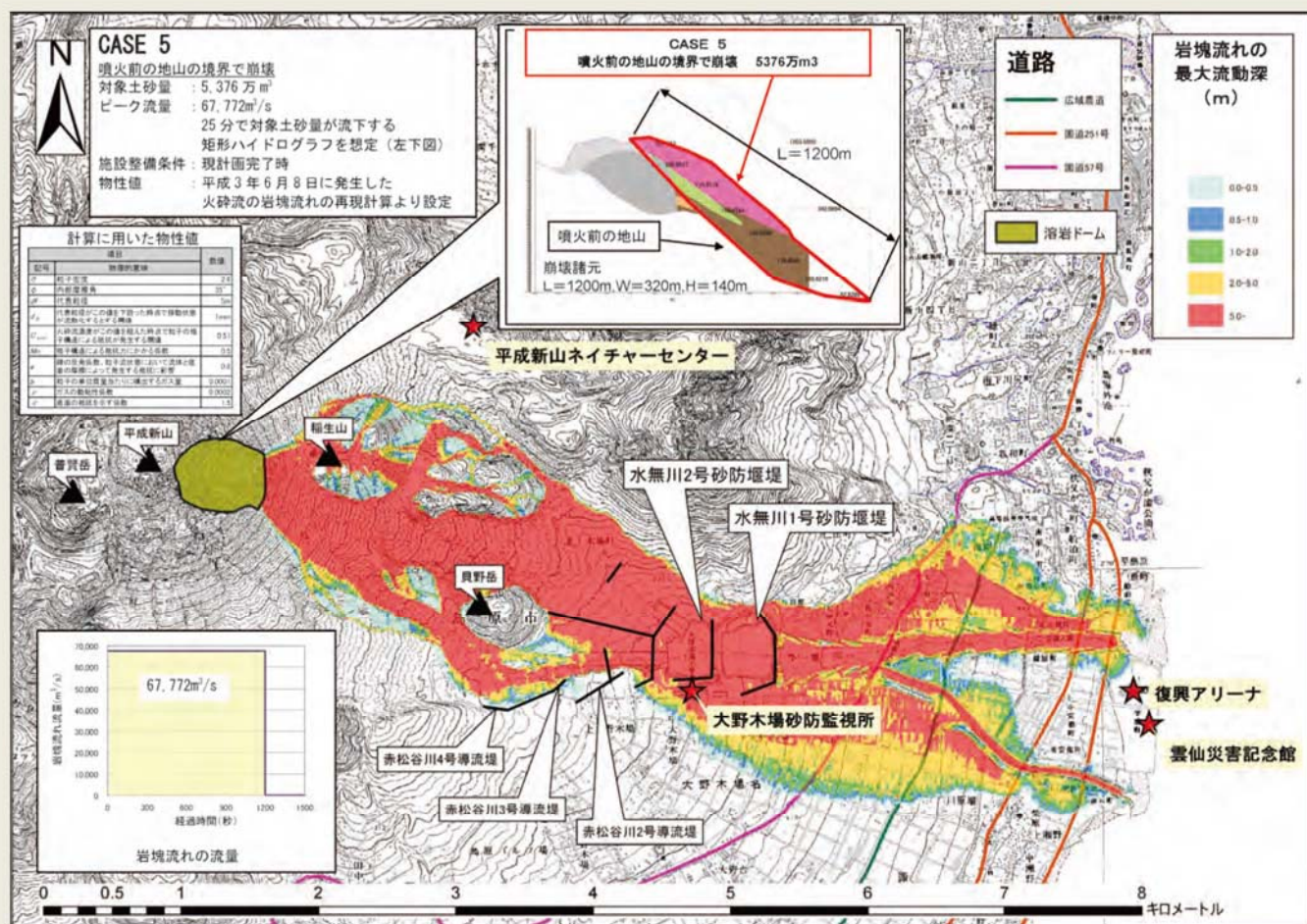


図7: 溶岩ドーム崩壊による影響範囲 (CASE5)



写真7: 眉山崩壊による流れ山 (平成27年12月撮影)

水無川流域の砂防事業



写真8：水無川流域事業範囲（平成23年11月撮影）



写真9：平成27年12月撮影



写真10：水無川砂防堰堤群（平成27年12月撮影）



写真11：水無川導流堤（平成27年12月撮影）

中尾川流域の砂防事業



写真12：中尾川上流事業範囲（平成23年11月撮影）



写真13：中尾川下流事業範囲（平成23年11月撮影）



写真14：中尾川砂防堰堤群（平成27年12月撮影）



写真15：中尾川導流工（平成27年12月撮影）



写真16：平成27年12月撮影



写真17：湯江川事業範囲（平成23年11月撮影）



写真18：完成当初の湯江川砂防堰堤（平成22年3月撮影）



写真19：現在の湯江川砂防堰堤（平成27年12月撮影）

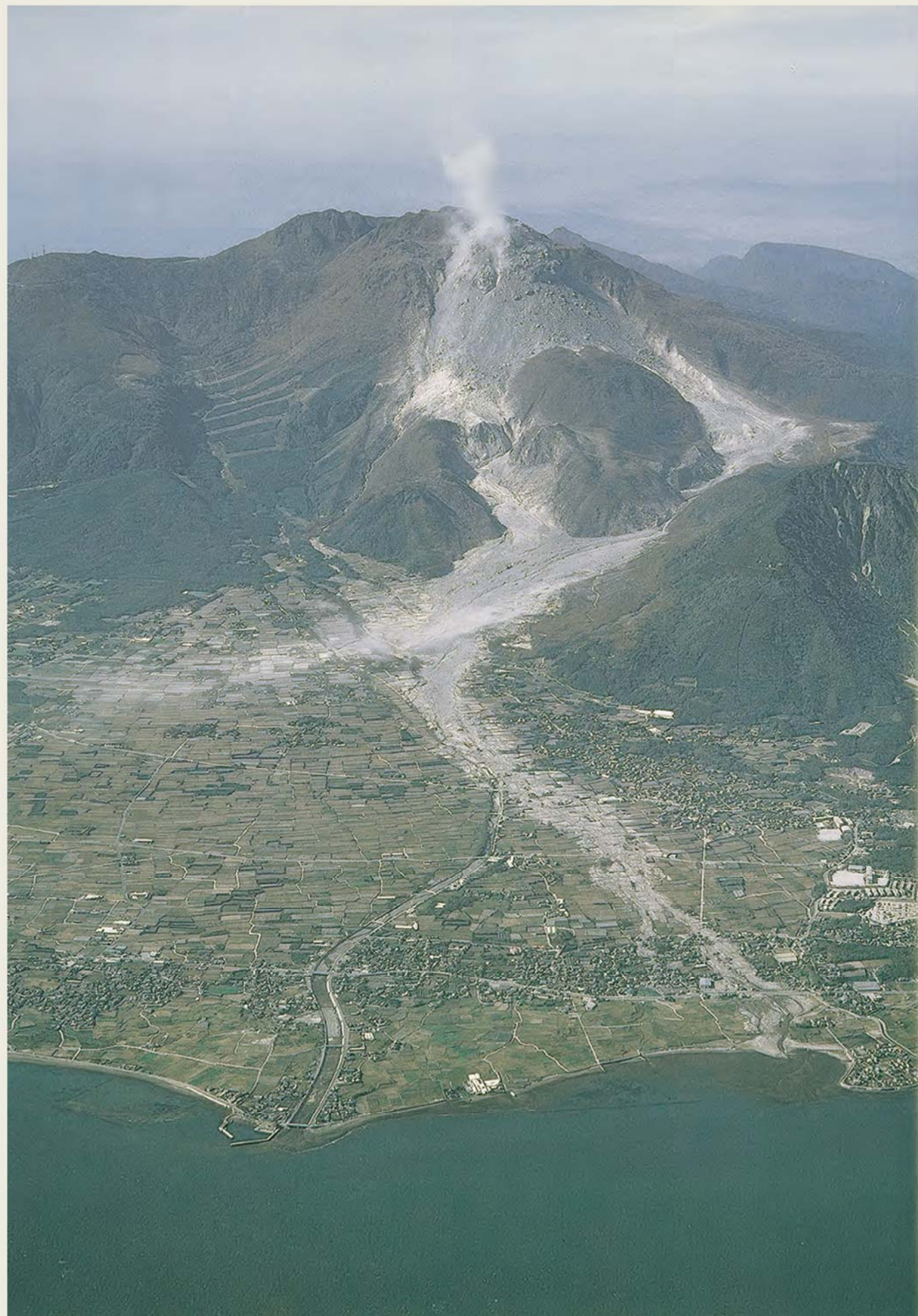


写真21：平成3年5月



写真22：平成3年12月



写真23：平成4年11月



写真24：平成4年12月

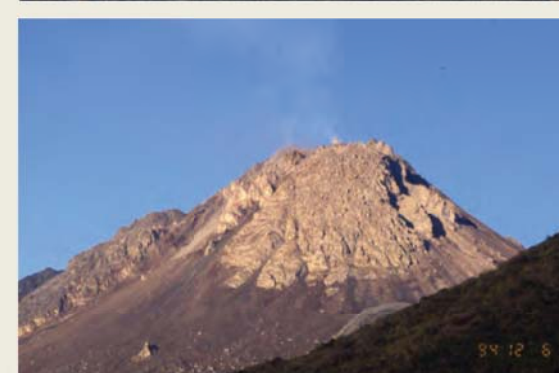


写真25：平成5年12月

写真20：平成3年6月30日土砂災害後の被災地の様子（提供・島原新聞社）
出展：「雲仙・普賢岳噴火災害を体験して」特定非営利活動法人島原普賢会発行 平成12年8月

写真21～25：溶岩ドームの発達の様子（安中公民館から撮影、撮影・提供・杉本伸一氏）
出展：「雲仙・普賢岳噴火災害を体験して」特定非営利活動法人島原普賢会発行 平成12年8月

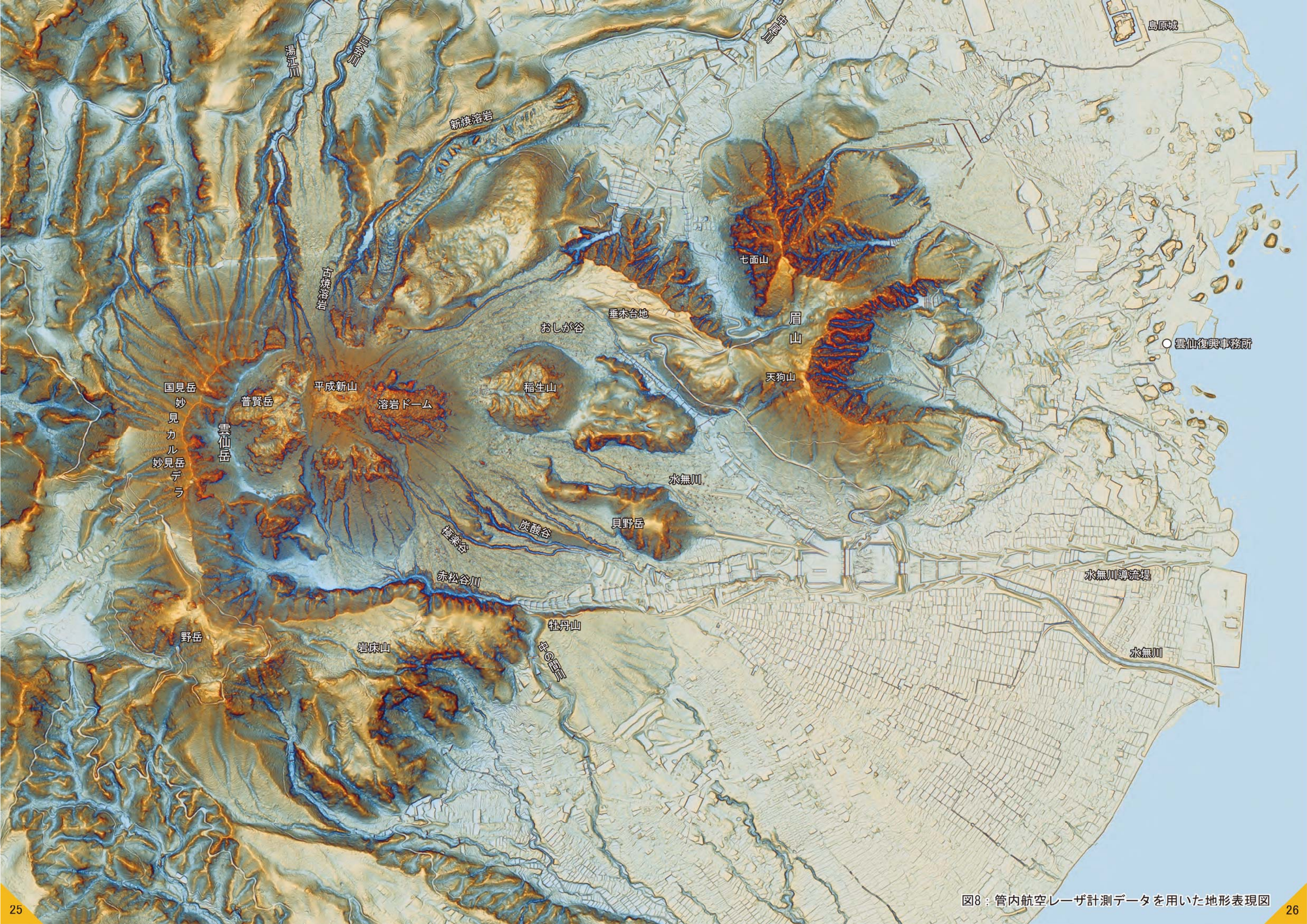


図8：管内航空レーザ計測データを用いた地形表現図